

宮っこ未来ビジョン2.0

— 心豊かでたくましく生きる人を目指して —

令和8年3月

宇 都 宮 市
宇都宮市教育委員会

はじめに

○ 策定の趣旨

子どもからお年寄りまでが宇都宮市に愛着と誇りを感じながら、生涯にわたって夢をもち続け、心豊かでたくましく生きることができる人づくりを実現するため、「対話」と「創造」を人づくりの中核に据えた基本理念とその実現に向けた目標、家庭や地域、学校、企業、行政などの役割を示す「宮っこ未来ビジョン」を平成17年9月に策定しました。

令和7年度、ビジョンの目標期間である20年を迎えることから、検証をおこない、不変的な基本目標等は継承しつつ、現代に合わせた表現や構成に整理するなど、一部見直しをおこないました。

本市では、これからの時代を力強く生き抜くための**確かな「人間力」を育む人づくり**に一層取り組んでまいります。

※人間力…体力, 知力, 感性, 対人関係力などを総合した力

○ ビジョンの性格

宇都宮市総合計画を上位計画とし、人づくりの理念や目標、実施主体となる家庭、地域、幼稚園・学校、市民活動団体、企業、行政の役割を明らかにするとともに、市民と行政がパートナーシップに基づいて人づくりを推進するための指針となるものです。



基本理念

どのような時代の潮流の中にあっても新しい時代を切り拓ける人づくりを目指して基本理念を設定しています。

「心豊かでたくましく生きる人を目指して」
—心の触れ合う「対話」と未来を切り拓く「創造」を通して—

○「心豊かで」とは

心の豊かさとは、「他を理解し共により良く生きようとする態度」の基本となるものであり、ものごとに感動する感性と自分以外の「他」を受け入れ尊重したり、モラルやルールを守ったりする姿勢を意味します。

この心の豊かさは、多様な価値を認め尊重する姿勢を生み、様々な問題解決場面でより高い次元での解決の方策を見出し、自己の人生をより豊かにしたりすることにつながります。

○「たくましく」とは

たくましさとは、「自らの目標の実現に向けて果敢に挑戦する姿勢」の基本となるものであり、目標実現のために積極的に行動しようとする意欲と直面する課題を創造的に解決する力、それを支える健康・体力を意味します。

このたくましさは、もって生まれた健康・体力を生かしながら、自らの責任において、自己の夢の実現に創造的に取り組み、全うしようとする姿勢につながります。

○基本理念を支える「対話」と「創造」とは

人づくりの基本理念は、「対話」と「創造」という2つのキーワードに支えられています。

宇都宮の人づくりは、市民一人一人が様々な「対話」を通して、互いのよさを伝え合うとともに、様々な課題について共に考え、「創造」的に解決できる力を身に付けることを目的としています。

基本目標

基本理念を具現化する不変的な7つの基本目標と基本目標に紐づく特に身に付けたい資質・能力を市民の行動目標として設定しています。

基本目標(特に身に付けたい資質・能力)

- 1 自己実現** 自分自身の意見や考えを持ち、目標の実現に向けて、自らの責任において主体的に行動します。
(意志力, 忍耐力, 粘り強さ・職業観, 勤労観・金銭管理能力)
- 2 課題解決** 生涯を通じて学び続け、課題解決に努めます。
(基礎学力・問題解決能力・想像力・表現力・語学力・情報技術力)
- 3 技術・文化の伝承, 科学の理解** ものづくりを通して、つくる喜びを感じ、技術・文化の継承や科学の理解に努めます。
(新しいものを創り出す態度・思考力・喜んでものづくりに取り組む態度)
- 4 思いやり・共生** 他者を思いやり、様々な人々と協力して、支え合いながら共に生きるよう努めます。
(あいさつ, 言葉遣い・コミュニケーション能力・人間関係形成力・奉仕の精神・思いやり, 共生の精神・倫理観・平和を願う心・死生観)
- 5 文化創造** 自国文化や異なる文化を理解し、新しい文化の創造に努めます。
(自国文化理解(伝統, 習慣, 礼儀作法)・異文化理解・文化の創造)
- 6 きまり遵守** 社会のきまりを守り、協力し合いながら生活ができるように努めます。
(法令遵守・社会のルールの遵守・基本的な生活習慣の定着・権利や義務の理解・社会の一員としての自覚・公共心)
- 7 健康・体力の保持増進** 生涯にわたってスポーツに親しみ、健康や体力の保持・増進に努めます。
(スポーツに親しむ態度・体力の保持・食の自己管理能力)

各ライフステージにおける人づくり

基本目標を発達段階に応じたライフステージ別に具体化するとともに、ライフステージの目標の実現を支援するため家庭や地域、市民活動団体、幼稚園・保育所、学校、企業、行政の役割を明らかにしています。
 (詳細は別冊参照)

ライフステージ	説明
0歳 ↳ 乳幼児期	<p>乳児期は、保護者などの大人にたよりながら、自己の欲求や感情を十分満足させてもらう関係の中で、基本的な信頼関係を形成する時期です。幼児期は、自分が困った時に保護者は助けてくれるという安心感のもと、保護者から離れて活動し、その成功経験から自分への自信を深めます。また、他者とぶつかりつつも衝動をコントロールする力を身に付け、自発的に目的意識をもった行動ができるようになっていく時期です。</p>
6歳 ↳ 少年期	<p>家族との人間関係から学校・地域での人間関係へと広がりを見せる時期です。この時期には、自分自身の意見や考えを持って、仲間と協力していく手法を習得したり、知的で好奇心旺盛な活動により、試行錯誤しながらも主体的に物事に取り組み自力解決する力を身に付けたりすることで、自分への信頼や自己肯定感を深める大切な時期です。また、自分への信頼や自己肯定感をもとに、未来に夢と希望をもって、様々なことに挑戦していく時期でもあります。</p>
15歳 ↳ 青年期	<p>地域や社会とのかかわりを深めながら、社会に認められる自分らしさを確立するとともに、他者を心から理解し思いやりながら、社会的に責任のある行動がとれる力を身に付ける時期です。</p>
30歳 ↳ 成人期	<p>かけがえのない家族の存在を認識し、支え合いながら円満な家庭を築く時期です。また、社会の中での自分の役割を考えるとともに、地域の子どもたちや後輩などの声に耳を傾け、家族以外の他者ととともに地域活動・社会貢献活動に取り組むことで、無限の可能性をもつ次世代の育成を支援する時期でもあります。</p>
65歳 ↳ 高齢期	<p>身体的な不自由さや親愛なる人との死別など、肉体的にも精神的にも大きな試練が伴います。このような時期においても、自己のよりよい生きがいを求めるとともに、より良い社会づくりのリーダーとして、若い世代を見守り、長年培ってきた知恵・技術、経験などのすばらしい力を全人類的な視点から社会還元することが求められる時期です。</p>

各ライフステージにおける人づくり【乳幼児期】

ライフステージの目標

○ 自分づくりに関する目標

自己実現

○「人」「モノ」に積極的にかかわり、いろいろな「ためし」をします。

技術・文化の伝承, 科学の理解

○ものづくり体験教室などで、試行錯誤しながら、ものづくりに取り組みます。

文化創造

○地域の自然に触れたり、祭りなどの伝統行事に進んで参加したりするようにします。

健康・体力の保持増進

○好き嫌いなく、規則正しい食事をします。

課題解決

○よく笑い、よく泣き、十分に自分の感情を表現します。遊びながら、自然などの様々な不思議を学びます。

思いやり・共生

○遊びの中で、友達と触れ合い、けんかをしたり仲直りをしたりしながら、より良い友達関係をつくります。

きまり遵守

○「起床」「食事」「睡眠」などの基本的な生活習慣を身に付けます。



各ライフステージにおける人づくり【乳幼児期】

役割

○家庭

子どもと保護者の心の通い合う愛情の中で、孤独や不安から子どもを守り、子どもが「自分が困ったら保護者が助けてくれる」などの安心感がもてる信頼関係を築くよう努めます。

○幼稚園等

遊びを通して、友だちに自己主張したり、相手を受け入れたりして仲良くできる力が身に付くように努めます。

○地域等

家庭が安心して子育てできる地域の環境づくりに努めます。
感動や命を大切に作る心を育てるために、自然や動植物と触れ合う場の設定に努めます。

○企業等

保護者が、家庭教育や地域活動へ積極的に取り組める職場環境(休暇制度など)を充実させます。

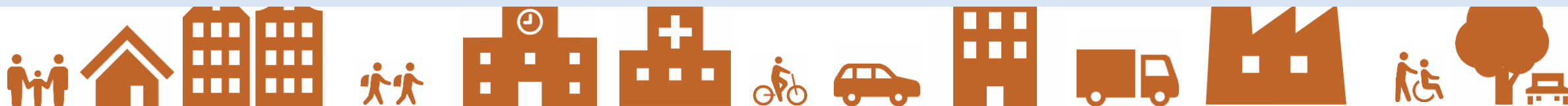
○行政

「子育てネットワークの整備」や「幼稚園等の教育(保育)支援」に努めます。

課題

○保護者との基本的な信頼関係の形成

○基本的な生活習慣や我慢する力を身に付ける



各ライフステージにおける人づくり【少年期】

ライフステージの目標

○ 自分づくりに関する目標

自己実現

○学校の社会体験活動や親の働く姿などにより、「自分はこうなりたい」という夢や希望を膨らませるとともに、働く意義を理解します。

技術・文化の伝承, 科学の理解

○原理や仕組みを考え、創意工夫しながら、ものづくりに取り組みます。

文化創造

○外国人との交流を通して、異文化への関心と理解をもつようにします。
○進んで、郷土の歴史、伝統文化、芸術などの多様な文化に触れ、体験できるようにします。

健康・体力の保持増進

○ルールを守り、仲間との関係を深めながら、進んでスポーツに取り組みます。

課題解決

○自分の考えをよく話し、相手の意見との違いに気付き、互いにより良い解決方法を発見します。

思いやり・共生

○動植物や乳幼児、高齢者との触れ合いなどを通して、命に限りがあることを自覚し、自己のより良い生き方を考えます。

きまり遵守

○交通規則など、法令遵守の必要性を自覚し、進んで守るようにします。



各ライフステージにおける人づくり【少年期】

役割

○家庭

子どもの意見や考えを尊重するよう努めます。
家事の役割分担や家族行事の計画を担当させ、家族の一員である自覚と責任感の育成に努めます。

○小中学校

子どもの最善の権利を守り、意見を表明する機会の確保に努めます。
奉仕活動などの社会体験活動を通して、奉仕の精神や職業観、勤労観の育成に努めます。

○地域等

子どもの意見や考えを尊重するよう努めます。
地域活動の計画・実行・評価を子ども自らに行わせ、問題解決能力を養うとともに、自主性の育成に努めます。

○企業等

子どもの豊かな心や職業観、勤労観、チャレンジ精神、創造力を身に付けさせるため、積極的に学校教育の社会参加体験などへの協力に努めます。

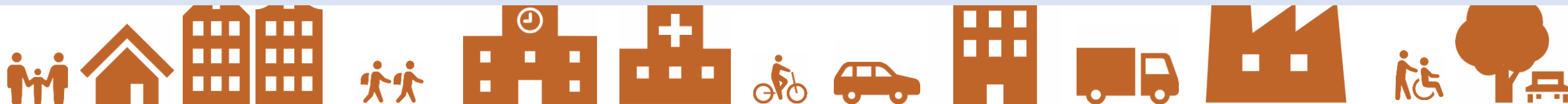
○行政

子どもの意見を表明する機会の確保に努めます。
「子育て」や「教育」に関する支援ネットワークの整備の支援とコーディネーター育成に努めます。

課題

○よりよい人間関係を形成する力を身に付ける

○進んで学んだり、活動したりする意欲・我慢する力や粘り強く物事に取り組む姿勢を身に付ける



各ライフステージにおける人づくり【青年期】

ライフステージの目標

○ 自分づくりに関する目標

自己実現

○職業生活の充実のために、リカレント教育など、様々な教育制度を積極的に活用します。

技術・文化の伝承, 科学の理解

○多様な原理や仕組みを取り入れ, 独創的なものづくりに取り組みます。

文化創造

○様々な文化・芸術を学び, 異文化交流を実践します。

健康・体力の保持増進

○スポーツやレクリエーションに積極的に取り組み, 体力向上に心がけます。

課題解決

○将来のイメージを設定し, 「仕事をする」と「生きる」とを対比させながら, 実現に向けた課題を見つけ出し, 解決に向けて創造的に取り組みます。

思いやり・共生

○国を超えた人々との交流などにより, 日本の素晴らしさや今後のあるべき姿を認識するとともに, 「異なること」を受容し, 共に生きようとする姿勢を身に付けます。

きまり遵守

○社会の一員としての義務を果たします。



各ライフステージにおける人づくり【青年期】

役割

○家庭

青年の意見や考えを尊重するよう努めます。
青年の生活の自立をめざし、何事も自分で決め、実行し、結果に対して責任をもたせるよう努めます。

○高等学校等

青年の最善の権利を守り、意見を表明する機会の確保に努めます。
就職や進路変更などにも柔軟に対応できる高等教育の仕組みを通して、自己実現に向けた様々な知識や技能を提供します。

○地域等

青年の意見や考えを尊重するよう努めます。
地域よりさらに大きな社会活動を通して、差別や偏見について考えさせ、社会人として身に付けなくてはならない力の育成に努めます。

○企業等

保護者が家庭教育や学校教育、地域活動に常にかかわることができる職場環境づくりに努めます。

○行政

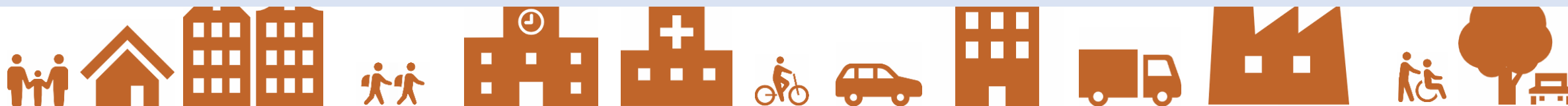
青年の意見を表明する機会の確保に努めます。
青少年支援ネットワークの整備の支援とコーディネーター育成に努めます。

課題

○目的意識が低下

○勤労観、職業観を持つ

○人間関係を形成する力の育成



各ライフステージにおける人づくり【成人期】

ライフステージの目標

○ 自分づくりに関する目標 ■ 次世代育成に関する目標

自己実現

○職業生活の充実のために、積極的にリカレント教育などを活用します。

■夢を追いながら、積極的に自己実現に取り組み、その姿を子どもに「そのまま」見せ、「夢をもつことの大切さ」を伝えます。

技術・文化の伝承, 科学の理解

○新しい技術や科学の理解に努め、豊かな生活の創造に努めます。

■職業や趣味で身に付けた様々な技術を子どもたちや青年に伝承し、新しいものを創り出す喜びを伝えます。

文化創造

○多様な文化活動に取り組み、社会に生かすようにします。

■自己の生きがいとして、郷土の自然や歴史、伝統文化を次世代に伝えます。

健康・体力の保持増進

○スポーツやレクリエーションなどを通して、積極的に健康管理に努めます。

■世代を超えたスポーツの指導や交流により、次世代の育成に取り組みます。

課題解決

○職業生活や趣味などにおける自己実現を目指し、積極的に自己の課題解決に取り組みます。

■地域の子どもや青年に対し、自己の経験や知識、技能の伝達を通して、「学ぶ」ことの意義を教えます。

思いやり・共生

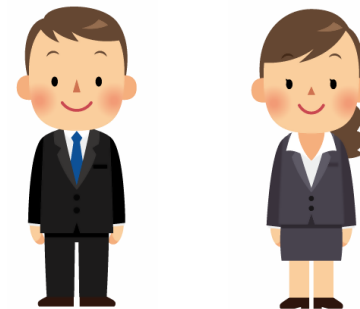
○家族一人一人がもつ「らしさ」を尊重し、より良い家庭を築きます。

■乳幼児や高齢者への奉仕活動などを通して、子どもたちに「命の大切さ」や「命には限りがあること」を伝え、自己の生き方を考えさせます。

きまり遵守

○社会的な責任を自覚し、より良い地域や社会づくりに取り組みます。

■家庭や地域の子どもたちに、法令遵守の大切さを教えます。



各ライフステージにおける人づくり【成人期】

役割

- 家庭 配偶者や祖父母などの人間性を受け入れ、家族とのより良い人間関係の形成に努めます。
- 幼稚園等 保護者に対して、子育て情報を提供するとともに、相談機能の充実に努めます。
- 地域等 地域活動や生涯学習の機会をつくり、子どもとのより良い関係の構築や自己実現に向けたサポートをします。
- 企業等 意欲のある多様な人材を積極的に雇用し、働く場を提供します。
- 行政 家族とのより良い人間関係を形成するため、相談事業や研修事業などの充実に努めます。

課題

- 次世代を育成する意識を持つ
- 「新しいものを作り出す創造性」や「情報技術・語学力などの社会変化に伴い必要とされる力」など、自己実現のための資質や能力を身に付ける



各ライフステージにおける人づくり【高齢期】

ライフステージの目標

○ 自分づくりに関する目標 ■ 次世代育成に関する目標

自己実現

○過去の経験や知識を基に生涯学習に取り組み、新しい自己の発見に努めます。
 ■自己の生きざまについて、地域の子どもたちや次世代と語り、子どもたちの生き方を考えさせるように努めます。

技術・文化の伝承, 科学の理解

○新しい技術や科学に興味をもち、自分の生活をより豊かにするために活用します。
 ■職業生活や趣味で身に付けた様々な技術を子どもたちや次世代に伝承し、新しいものを創り出す喜びを伝えます。

文化創造

○長年の文化活動で培われた経験と知識を社会に生かすようにします。
 ■自己の生きがいとして、郷土の自然や歴史、伝統文化を次世代に伝えます。

健康・体力の保持増進

○体力保持のために、自分に合ったスポーツやレクリエーションに取り組みます。
 ■健康について考えた食事の仕方を伝えます。

課題解決

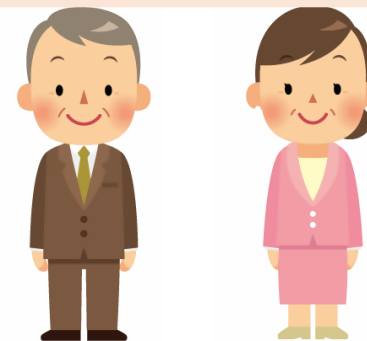
○職業生活や趣味における自己実現を目指し、積極的に自己の課題解決に取り組みます。
 ■社会の「ご意見番」として、長年培った経験や知恵、技術を活用し、ボランティア活動などを通して次世代の育成に取り組みます。

思いやり・共生

○社会の人々との触れ合いを深め、互いに思いやる社会生活をします。
 ■より良い社会づくりのリーダーとして、若い世代を見守り、長年培った知恵、経験、技術を活用し、次世代を育成します。

きまり遵守

○社会的な責任を自覚し、より良い社会づくりに取り組みます。
 ■社会全体に向け、社会生活をする上でのきまりを守ることの重要性を知らせます。



各ライフステージにおける人づくり【高齢期】

役割

○家庭

長い人生から得られた経験や知恵などを若い家族に伝えることを通して、家庭のかけがえのない存在である認識をもつことができるようにします。

○学校

高齢者の自己実現や職業能力開発を支援するため、知識や技術を習得できるリカレント教育などの充実に努めます。

○地域等

体力の維持増進のために、様々な健康づくりやスポーツ・レクリエーション活動の機会の確保に努めます。

○企業等

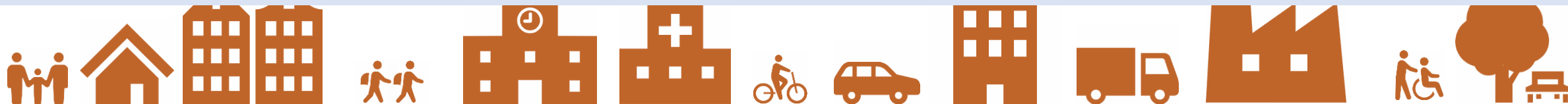
働く意欲のある高齢者を積極的に雇用し、高齢者が社会貢献する機会の確保に努めます。

○行政

奉仕活動や生涯学習の講師など各種行事などの指導者として、高齢者の優れた英知を生かす場を確保し、高齢者が生きがいをもてる仕組みを構築します。

課題

- 独居老人が増加, 社会とのつながりの希薄化が懸念
- 老後, ボランティアなどの社会参加に関する活動は少ない傾向



宮っこ未来ビジョン2.0

反映・具現化

総合的・計画的に推進

宇都宮市教育振興基本計画

学校教育推進計画

地域教育推進計画

文化振興基本計画

スポーツ振興基本計画

反映

時代の潮流

- (例)
- ・ VUCAの時代(変動性, 不確実性, 複雑性, 曖昧性)
 - ・ DX の進展, AI ・ロボット・グリーン(脱炭素)
 - ・ 共生社会
 - ・ ウェルビーイング(協働性, 多様性への理解, 自己実現等)
 - ・ グローバル化 等

学校教育推進計画, スポーツ振興基本計画, 文化振興基本計画などに, このビジョンの理念を反映させ具現化を図るとともに, ウェルビーイングをはじめとした時代の潮流も反映させながら, 宇都宮の人づくりを総合的・計画的に推進してまいります。